

多職種による重粒子線医学センター内での急変時対応シミュレーション

重粒子線医学センター（以下GHMC）では、様々ながんに対する重粒子線治療を行っている。他の病院施設からやや離れた独立した立地であるため、予期せぬ事態が発生した際の対応には注意が必要になる。そのため、2010年3月に治療を開始して以降、救急部の協力を得ながら緊急時の対応について常に取り組んでいる。今回、患者さんが急変した場合の対応シミュレーションを行ったので、その内容について報告する。

重粒子線医学センターの特徴

- ・2010年3月治療開始
 - ・現在、年間600名以上の重粒子線治療を実施している。
 - ・MRIやCTの装置も設置され、造影剤を使用した検査も行われる。
- <問題点>
- * **施設が離れている**（外来棟・入院棟から徒歩約10分）。
 - * 車いす・ストレッチャーの患者さんの移動には搬送車が必要である。
 - * 普段診療にかかわらない医療職以外のスタッフもいる。
 - * 以上の理由から、**急変時の対応には特に配慮が必要である**。



緊急時対応の目的

1. GHMCに勤務する多職種スタッフ（医療職以外も含む）が協働し、**一次救命処置が適切に実施できる**。
2. 一次救命処置ののち、早期に適切な手順で、救命救急センタースタッフ等の協力を得て**安全に病院へ搬送**する。

緊急時への備えとしてのこれまで訓練

救急部の協力を得て、開設当初より定期的に**全職種で一次救命処置ができる訓練**を実施しており、今回の訓練と過去の代表的な訓練を以下に示す。

2010年3月治療開始

- GHMC内の待合ホールにAEDを設置
- 2010年8月 BLS講習会 + 緊急対応訓練
- 2012年3月 避難訓練
- 2015年1月 BLS講習会 + 造影剤ショックを想定した緊急対応訓練
- 2017年6月 造影剤ショックを想定した緊急対応訓練
- 2019年4月 緊急対応訓練（内容について事前予告あり）



BLS実施の様子



一次処置後ICU医師が到着した場面



搬送車で救急部へ実際に搬送

緊急時への備えとしての今回の訓練

2020年1月 急変時対応シミュレーション（事前予告なし）

<目的>

- ・急変時にすべてのスタッフが自信をもって対応できること
- ・GHMCスタッフと救急部の連携の確認

<内容>

- ・患者役のスタッフが心肺停止という設定で突然倒れ、その対応を実際に行った。
- ・急変が起きる場所や時間、シミュレーションの内容に関してGHMCスタッフに事前に予告しなかった。
- ・緊急用ブザーが使用できるか確認した。
- ・実際にBLSを行い、AEDを使用できるか確認した。
- ・GHMCスタッフと救急部の連携を確認した。

シナリオ

患者：施設の点検に来られた業者の方

状況：廊下で心肺停止となり倒れる

↓
GHMCスタッフが患者を発見

↓
心肺停止を確認

↓
緊急対応の手順に沿って初期対応

↓
救急部へ搬送



緊急用ブザー



AED



<今回の結果、検討事項>

- ・とっさの行動（BLS、AED、緊急用ブザーの使用）に戸惑うことがあった。
- BLS受講を徹底し、医療者ではない人が第一発見者の対応についてわかりやすくまとめる。
- ・実際には対応できる人数が限られているため、効率よく指示する人などの役割分担が必要。
- 緊急訓練を定期的に行い、スキルを高めていく。
- ・他部署のスタッフの連携について
- 訓練の定期的な実施による交流

まとめと今後の課題

- ・実際に急変時対応シミュレーションを行うことで、急変時対応の動きを確認できた。
- ・GHMCの状況に沿って緊急対応訓練を行うことで、スタッフへの周知ができる。
- ・定期的に訓練を実施することで、問題点を抽出し、改善していく。
- ・今後は1年に1回程度の訓練が実施できるよう体制を整える。

GHMCを利用される皆さんが、安心して治療・検査を受けていただけるよう、多職種スタッフや他部門とも協力し、継続した訓練・検討を行っていきます。